＊卒業論文

重症心身障害児・者のコミュニケーション方法に関する文献検討

○三宅 彩加（兵庫あおの病院），東郷 利奈（神鋼記念病院），遠藤 洋次（関西福祉大学）

Ⅰ.はじめに

重症心身障害児・者（以下、重症児（者）とする）の意思を読み取り、把握すること意思疎通を図る上で重要である。しかし、言葉で表現をすることが難しいことから、先行研究では経験年数 5 年以下の看護師で重症児(者)との関わり方に戸惑いを感じている割合が高い（村上ら，2015）ことが示されている。そこで、本研究は、重症児(者)とのコミュニケーションが記載さている文献をもとに、重症児(者)の意思を読み取る方法を明らかにする。

Ⅱ.研究方法

研究デザインは文献検討とする。文献の検索には医学中央雑誌（ver.5）を用い「重症心身障害児」と「コミュニケーション」の AND 検索と、日本重症心身障害学会誌の掲載挿位からから重症心身障害児及びコミュニケーションに関する内容の文献を抽出する。なお、どちらも検索期間を過去 10 年とし分析方法は、対象となった文献より、重症児（者）との具体的なコミュニケーション方法について記載がある箇所を抽出・分類することとした。

Ⅲ.結果

文献検索の結果、18 件を分析の対象とした。対象文献の内容から重症児（者）との意思疎通の方法として【身体的な変化を観察】【数値による測定値を観察】【コミュニケーションツールを活用し観察】の 3 カテゴリが抽出された。【身体的な変化を観察】のサブカテゴリは、『表情の変化の把握』『声の様子の観察』『口唇・舌の動きの観察』『目の動きの観察』『鼻の動きの観察』『筋緊張の観察』『上肢の動きの観察』の 7 つであった。【数値による測定値を観察】のサブカテゴリは『心拍の変化を測定』、『唾液アミラーゼの測定』、『筋電図による測定』の 3 つであった。【コミュニケーションツールを活用し観察】のサブカテゴリは『コミュニケーションツールの活用』であり、内容は「1 カ月間ジェスチャー表を使用し、患児から新しいジェスチャーの表出あり」などであった。

Ⅳ.結論

重症児(者)との意思疎通をするため方法として、表情を含む身体的な動きの変化の把握や、客観的な指標として心拍数など測定値を把握する方法が明らかとなった。看護師には日ごろから重症児（者）の身体状態について理解し、それらの特徴的な変化に注目できるよう、細やかな観察すること、及び判断する力の必要性が示唆された。また、コミュニケーションツールの活用は、使用にあたり訓練は必要になるものの、重症児(者)とのコミュニケーションの幅が大きく広がる重要な手段となることが示された。

Ⅴ.文献

村上 尚子　山崎 好恵　中川 浩美　西川 貴浩（2015）．個別的なコミュニケーション方法の情報共有 に向けての取り組み．日本重症心身障害学会誌，40 巻（2）,282.

渡部 富栄（2011）．対人コミュニケーション入門看護のパワーアップにつながる理論と技術,pp.14.ライフサポート社.